

お客様様 元氣通信

むけ

お客さま、こんにちは！ お元氣ですか？

今年の冬は8年ぶりの大雪、そして寒さが続き連日自宅前駐車場や道路の除雪、それによってうず高く積まれた雪のやり場が無いという状況にはちよつと閉口しました。除雪で体のあちこちが悲鳴を上げ、日頃の運動不足を痛感させられました。しかしこの雪で大変な思いをされた方々もおられます。

お見舞い申し上げます。

さて、話は変わりますが、以前寄稿していただいた、酒学工房川松屋の店主で「酒博士」川松正孝さまより今号も寄稿文をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

お客様の思いもよらぬ疑問に戸惑いを感じたことはありませんか？

先日の出来事です。陳列棚をじつと見ていたお客様からふと一言、「どのお酒が一番美味しいですか、または、美味しいお酒はどの様に見分けるのですか。」と尋ねられ、一瞬返答に悩みました。最近のお酒はどれも美味しいし、はて一番と言うと、どの様な返答を期待されているのであろうか？美味しさの表現は各々異なるので、ちよつとさぐりを入れながらもあまり考えすぎても失礼になるといけないので「丁度レストランのメニューを見てどの料理が一番美味しいですかと尋ねられたら、オーナーシェフはどのように答えるか、多分シェフは素材(肉、魚)を始め、調理法や味わいについての説明しながらお客様の好みを探っていくでしょう。お酒についてもこれと似ていると思うのですが、お酒そのものを味わいたいのか、お料理とのハーモニーを楽しみながら味わいたいのか、そして現在のお酒はバラエティに富んでいて、香り華やかな酒、落ち着いた酒、旨味のある酒、どっしりした味わいの酒、甘酸っぱくシユワ〜とした酒など、どれも素晴らしい味を醸しています。その裏には、各蔵元さんの酒造りに対する情熱と探究心、たゆまぬ努力があつて、まさに「発酵」のなす「業」を表現しているのです。酒の味わいは、甘味、酸味、苦味、渋味など約50種類の成分で構成され、その凹凸がのどの前後で交錯し、鼻に伝わった香りとともに味を感じることが出来ます。単にお酒というよりは、まさに微生物の力によって生み出された神秘に満ちた液体と言えらると思います。それを感じてほしいのです。」

こんなふうに、お客様の好みのお酒をヒントにしつつ話をして行くと、最初は少し戸惑ったような表情が笑顔に変わり、何となく理解してくれたのかなと感じました。「味」を伝えることは難しいですね。ちなみにこのお客様からは、やさしい味わいの純米吟醸酒と純米酒をお買い求めいただきました。

季節は冬から春へと移り、各地で春一番の声が聞かれますが、それでもまだ「鍋料理」が嬉しい時節です。具材は海の幸、山の幸、まずは素材そのものの味わいで直球、次に薬味を加えて変化球、そして最後は具材の旨味が凝縮されたスープを活かしたメの食事でこれまた直球真ん中ストライク！ごはんや麺を入れてひと煮立ち、そこに溶き卵を加えた至福の味。全て胃袋に納まり、満腹感と満足感のうちに試合終了、ごちそうさまでした。鍋は野菜やきのこ、海藻など、食物繊維や栄養素を多く含んだ食材を一度にたっぷり摂取することができ、しかも消化が良くヘルシーな料理。さて、それでは鍋にどのようなお酒を合わせようか…。あつさり味の鍋にはやさしい純米酒、こつてり味の鍋には山廃や生酛系のお燗酒、辛みの効いた鍋には本醸造タイプの酒、こんなことを考えながら、お客様との会話を楽しみながらお酒の魅力を伝え続けています。

え？なぜ野球が突然出てくるか？横浜の酒屋ですから！



ヒッチハイカーとの一期一会

生産部 島貫 修一

ヒッチハイクしたり、ヒッチハイカーを乗せたことがありますか。私自身ヒッチハイクの経験はないけど、ヒッチハイカーは何度も乗せたことがあります。誰にでも勧められることではないけれど（特に女性は）、これも人生での出会いの一つ。

北海道で集合時間に遅れ山岳部仲間に置き去りにされた北大生を、目的地の摩周湖まで送り届けたのは珍事だったが、最も思い出に残るのは外国人のヒッチハイカー。

ある日の昼過ぎ、米沢市の13号線で「東京」と書いたボードを持った青年を車に乗せた。実家へ帰る途中だったので、「福島市までいいですか」と聞いたら返事の発音がおかしい。そこで同じことを英語で言い直してみたらOKと返ってきた。その後の会話で判ったことは、彼は日本人ではなくカリフォルニア州出身の日系アメリカ人で25歳。山形でALT（外国語指導助手）をしており、今日はヒッチハイクで東京の友人の所へ行く途中とのこと。

ところが東京で会う約束の時刻を聞いたらなんと午後6時で、あと5時間しかない。そこで福島市から東京までは170マイルで、4号線を走ったのでは間に合わない。高速道路のトラックストップでヒッチハイクすべきだと彼に提案し、福島飯坂ICから東北自動車道に入り安達太良SAに車を止めた。そして彼に缶コーヒーを渡し、「二人で並んでいると二人組のヒッチハイカーと思われて乗せてくれる車が少なくなる」「ここから見ているから、駐車場出口近くでボードを掲げて車を待ちなさい」と話すと、彼はThank you very muchと答え歩き出した。数分後1台のバンが彼の前に止まった。助手席のドアを開けた彼が振り向き手を振ったので、私も手を振り返したHave a nice trip Good by!

バンの運転手さん、彼が日本人だと思ったらアメリカ人だったので驚いただろうな。

◆ちょっと豆知識◆その35 「禁断の『本』に関するおはなし」

技術営業部 部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

「豆知識」もそろそろ絞り切っておからも出てこない状況になってきました。これまで強く戒めてきた「書評っぽいもの・本にまつわるエピソード」に手を出させていただきます。

仕事柄、商談のお相手は相応の年齢・役職の方が多く、そういった方々から「最近読んで面白かった本は？」とか「この間〇〇読んだんだけど成田君は読んだ？」と問われることがままあります。

「こいつ本も読まねえのか」と思われるのが癪なので、せめて芥川賞や直木賞、本屋大賞の本くらいは読んでおこうと思うのですが、それすらなかなか叶いません。

先日、取引先の社長さんら数名が集うお酒の席にご一緒させていただく機会を得ました。

お酒も進んで、なぜか最近読んだ本の話になりました。

ある方が、カズオ・イシグロの「日の名残り」を読んだが素晴らしかった、原著で読んでみたいと思った作品だった、と絶賛されていたので、出張の帰りに本屋に立ち寄って、早速「日の名残り」を購入しました（余談ながら一緒に「私を離さないで」も購入）。

熱っぽく「良い本だ」と力説されていただけあって素敵な本でした。「原著で読んでみたい」とおっしゃった意味も良く分かりました。

メールで読後の感想と素敵な本をご紹介いただいた感謝を伝えました。

同じお酒の席で、私の印象に残っている本として、小川洋子さんの「博士の愛した数式」を紹介しました。

読んだことのある方はご理解いただけると思うのですが、あの「ほわ～ん」とした空気感、「ゆっくりと時間が流れる感じ」が、本来ただの文字の羅列である文章から想起されるのに非常に衝撃を受けた、と言う話を、お酒の勢いもあって熱弁してたんだと思います。同席していた方がポツリと「今アマゾンで注文しました」とおっしゃったのが強く心に残っています。

またこんなエピソードもありました。

私が営業課長になった時、ふと本屋で目に留まった「そうか、君は課長になったのか。」を手に取りました（佐々木常夫：WAVE出版）。

普段この手の本には関心を持たないのですが、振り返ると自分なりに不安を感じていて何か行動の指針になるようなものを探していたのかも知れません。

商談の関で取引先の社長に課長になったことを伝えたところ、数日後に荷物が届きました。箱を開けてみたところ、そこには無造作に「そうか、君は課長になったのか。」が入っていて、苦笑いしながら嬉しさを噛みしめたのを昨日のこのように思い出します。本棚には今も「そうか、…」が二冊並んでいます。

相手に自分の好きな本を伝えたり、あるいは本を勧めたりというのは、自身の嗜好（指向？志向？）をばらす行為でもあって非常に勇気の要る行為です。

それでも様々な方々から本を勧められ、あるいは本をお勧めして、仕事とは直接関係のない会話が出来ることをとても心地よく感じる今日この頃です。



日本の野鳥シリーズ

唯一記録のダルマエナガ

佐藤 弘

カスミ網に掛かって自由を奪われているにもかかわらず、泰然自若(!?)というかハンモックでくつろぐ人間サマのように平然としている種がいる。一般にはなじみのないコサメビタキ・サメビ・エソビなどがそれだが、これは無論少数派で、おおかたの鳥はなんとか脱出しようと騒ぐ。なかで一番の暴れん坊はシジュウカラだと思う。頭と両翼両脚をそれぞれ網目につっ込み、右に二回ひねりのあと前転一回という具合に網にからまる。この程度はほんの序の口で、羽毛に隠れて網は一切見えないからケガをさせないように扱いは神経をつかう。

その上をいく小鳥が隣国にいた。前に日韓協同鳥類標識調査に参加したと述べたが、その際捕獲したダルマエナガだ。これが見かけよらず暴れるわ騒ぐわ、体力を使い果たしたり自縄自縛状態から自分の首まで絞める始末だ。つまり落ちる。これには使用する網にも問題があって、韓国側スタッフが用意したポーランド製の新品のカスミ網は、たるみが余りにも大きい。ユルユルだから鳥は暴れ放題なわけで、私らが使う国産の網に比べてなんとも使い勝手の良くない網だった。

韓国ではスズメなみに見かける本種も、我が国では34年前に新潟県の粟島で迷鳥として記録された例があるのみだという。迷鳥は本来の棲息地でも渡りの経路でもない所へ迷行するわけだから、強風に飛ばされるなどのアクシデントやいわゆる道を間違える以外に、人為的に運ばれた後のカゴ抜けの可能性ありという疑念が常につきまとう。だから珍鳥を捕えた時には、飼育されていた痕跡がないか入念に調べることになる。

粟島の一件はまったく知らず、その3年後に粟島から海上60kmほどの佐渡を訪れる機会があった。とある施設で、初めて見る外国種が飼われていた。本格的マニアの飼い主のようで、種名が分かったのは欧州に棲息するゴシキヒワだけ。他に数種類が20羽ほど亀甲金網張りの立派な小屋の中を飛び回っていたが、その中にダルマエナガがいたかどうか定かではない。

花より団子派としては韓国料理にも関心があったが、ごく日常の家庭のおかずレベルのものが中心だったので、これといった印象はない。激辛はもちろん口に合わない。

入国後私のスーツケースは他の国にはない変わった扱いを受けたし、釜山の金海空港から帰国の際は、丸ごとガラ空きなのに一番遠いどんづまりのゲート迄歩かされた。もてなしの気配りが徹底して行き届いた国だ。

■【私の時間】

生産部設計主任 須貝 智

私には二人の子供がいます。

五歳の娘と、一歳の息子です。

とある日、私がこたつでダラダラしていると娘が、「遊んで、遊んで！」と私のおなかにも馬乗りになってジャンプしてきました。「痛いよ」と言っていたら、一歳の息子がお姉ちゃんのマネをして私の顔にまたがってジャンプしてきました。二人の子供に乗られておなかは痛い、鼻も痛い、息子のオムツは臭いは・・・。

とある日、私が雪かきをしていると娘がリビングの窓を「ドンドン」と叩いて私を呼びました。私が近づくと娘は窓に顔をくっつけて、千と千尋の神隠しに出てくるカオナシの様な顔をしてきます。その脇で息子も窓に口をあげながら顔をくっつけて、エサを食べるときの鯉の様な顔をして遊んでいます。二人の何とも言えない可愛い変顔に癒されました。

こんな子供たちとの何気ない日常が、私の幸せな時間だと思っています。

出張が多くて、接する時間が少ないからそう思っているのかも・・・

私の時間

ペンリレー



今日の7月のお花

■【仲間との時間】

生産部資材 岩崎 敦子

「海洋少年団」ご存知でしょうか？私は新潟団に小5から入団し、かれこれ30年以上関わってきました。主人も同期入団。(途中七尾団に移りましたが)2人の子供たちも入団し、現在は指導員として一緒に活動しています。家族で手旗会話ができるという変わった特技を持っています。(実践したことはありませんが・・・)

現役時代は毎年夏に全国大会があり、北海道から九州まで行っていました。その頃知り合った清水団の友達が昨年、「新潟酒の陣」に足を運んでくれました。

そして今年、新潟に大雪が降った頃、同期の1人が4年ぶりにタイから一時帰国するとの連絡が入り、急にも関わらず皆集まり久々に思い出話に花が咲きました。小学生だった子が今ではお母さんに……。うーん、月日が経つのは早いなぁと思いつつ、集まれば一瞬でタイムスリップできる、その瞬間が、そしてそれを共有できる仲間がいることがとても幸せです。